

OZAWA TIMES

vol. 4

2021年6月25日発行



にし しん ぱい
西 真平

(前編に続く)

2020年からは営業職も兼務するようになつた西真平。コロナ禍でスタートさせた新しい業務に、当初は戸惑いもあつた。しかし今では、施工管理と営業のどちらも知る立場だからこそ得られる相乗効果を感じている。自分の新たな可能性に期待を膨らませる西に、仕事の大変さ、そして面白さについて語ってもらつた。

非対面での営業に難しさを感じながら

新型コロナウイルスの蔓延や、それに伴う緊急事態宣言の発令は、従来の営業スタイルを大きく変化させた。プラント業界も例外ではない。感染防止のため、訪問は極力控えてほしいという企業が増え、お客様と直接会つて話せないために生じる不都合も多々ある。その一つが、見積書の作成だ。

直接訪問の利点は、ほかにもある。やり取りの情報量が格段に上がるのだ。電話やメールだけでは、温度感やニュアンスなど伝えきれないことが山ほどあると、つくづく実感する。一度の対面で得られ

る信頼感の度合いも、非対面で交渉を続いている場合と比べて格段に大きい。

そうした理由から、状況が許す限りは現地に赴き、担当者と直接話せる機会を設けていただきたいとう。非対面でできる営業活動もちろんあるが、お客様との交渉をよりスマートに進める鍵は、やはり直接の対話を通して築き上げていく信頼関係にあると感じている。

施工管理とは違った視点で

営業を担当するようになって改めて学んだのは、伝え方だ。施工管理者として現場での仕事だけをしていれば、この先もずっと気つけなかつたかもしれない。現場で最も優先すべきは「安全確保」。たとえ相手がお客様であろうとも、危険を伴う場合ならストレートな言葉で注意喚起をしており、相手も素直に耳を傾けてくれていると思っていた。そのため、伝え方に

配慮することはあまりなかつた。

しかし、営業で最優先するのは「お客様の要望」だ。相手の求めを上手く引き出し、最善の提案をするには、反応を見ながら言葉を選び、タイミングや話し方にも気を配りながら意図を伝えていかなければならぬ。コミュニケーションの取り方一つで、お客様との関係も、その後の仕事の進みも大きく変わつてくる。営業という仕事においての難しい部分だが、それが魅力であり、やりがいもあるのだ。

わらせたいというお客様の希望も叶えなければならぬ。

受注した当初は大きな不安を抱きつつも、厳しい時間の制約を受けながら何度も話し合いを重ねていき、着工日の調整や、タンクの仕様決めなどを進めていった。こうしてスケジュールを締密に組んだ甲斐もあり、作業の進み具合は終始順調。事故もなく、すべての工程を完了させることができた。

納期の要望にもしっかりと応えた上で、完工は、営業担当者としての自信にもつながつた。

営業も、施工管理も任せてももらえる人材も築くために

施工管理者として経験を積み、営業としても実績を出し始めた西。今後はさらなる知識やスキルを身につけ、どちらも完璧にこなせる人材への成長を目指す。実力をきちんと評価してくれる、株式会社小澤製作所の職場環境も、仕事をするやる気や向上心を大きく後押しする。西は飽くなき向上心を胸に、これからも成長を続けていくだろう。



新規の依頼で大きな成功を

営業手法に関しては、コロナ禍で様々な制約に縛られながら、試行錯誤を繰り返している。そんな中、2020年の年末に受けた新規の依頼は、営業マンとしての活躍にはずみをつけるものとなつた。大型タンクの設置の依頼で、工事の規模としても大きな案件。どうしても3月末までに工事を終

施工事例紹介

工事の概要

案件：工場の既存の配管移動、
6基のタンクを屋内の試験設備に設置する工事
施工期間：4ヶ月
施工人工：280人

今回は竹内さんにお話を伺いました！
昨年の案件の獲得と成功の秘話、さら
に3年目を迎えた第二工事部の意気
込みまでみなさんにお伝えしたいと思
います！



第二工事部マネージャー
兼 資材部マネージャー
たけうち けんじ
竹内 謙治さん

最もこだわったところ、 工夫した点

できるだけ後戻りがないように作業をしています。
施工をしてから追加要望が発生すると工事のやり直しが発生してしまいます。なるべく納期が延びないよう打ち合わせの際に妥協をすることなく突き詰めています。



最も苦労した点

クライアントが大企業ということもあります。商社経由でこの案件に参加させていただきました。しかし、この案件の入札には多くの会社が見積もりで競合していました。最終的には私たち小澤製作所が採用されたのですが、試作品の段階からライバル社の偵察や安全面での指摘など、プレッシャーを感じながら仕事をしていました。また、大きなタンクと配管を屋内に設置する工事では、屋外から運んできたタンクをカニクレーンで据え置きするなど、狭い空間、かつ周りの人の作業を邪魔しないようにしていたので大変でした。

競合で勝つことができたのは金額面で工夫を重ねたからだと思います。価格を下げるためにチームで話し合った結果、案件を獲得することができました。



今後の意気込み・目標

私が所属する第二工事部は現在、深見さんと二人で運営しています。2年前の部署発足時に、具体的な売上目標を設定し、3年目までに達成しようと計画を立てていましたが、まだ達成できていません。今年で3年目になり、安定顧客や新規受注も増えていますがどうしてもマンパワーが不足しています。そのために経営陣と話し合い、人員を増やすこと。さらに人が増えると仕事がない意味がないので、営業の電話や見積もりを地道に続けて受注を増やしていくつもりです。

IZUMI PARKING 実績紹介

それぞれの仕事にはそれぞれのやりがいがある。

今回はいすみパーキング新栄営業所の西山さんに日々の業務や案件について伺いました。

いすみパーキング 新栄営業所 現場統括マネージャー 西山 雄真さん

業務内容

主にオフィスビルの機械駐車場をサブリースするビジネスモデルで行っています。現在、45物件を扱っており、台数にすると500台以上の車室を任せさせていただいております。

サブリース営業の勘所

オーナー様に提案資料をいかにご納得いただくかが一番大切です。サブリースとは、オーナー様からお借りした駐車場をユーザー様にお貸しすることで収益を上げるビジネスモデルです。多くの場合、オーナー様から借りる数ヶ月はフリーレントという賃料が発生しない期間であり、その期間にいかに早くエンドユーザー様に貸出ができるかによって当社の利益が大きく変わります。今回はある法人様から「車を複数台増やしたいのですが、駐車場の空きはありますか?」と言われましたが、空きがありませんでした。そこで、とあるマンションの駐車場に目をつけ、飛び込みでオーナー様に接触。結果、オーナー様から承諾をいただき、最大収益化することができました。



印象に残っている お客様の言葉

最も印象に残っているのは「西山さんはいつも早いから信頼できる」というお言葉です。営業する上で最も感動をもたらすのはスピード。常々、意識していたことが評価され、信頼につながっているのを実感できたため、強く印象に残っています。

BRICKYARD Recommended

木々の緑も日を増すごとに深くなっています。
もう秋物商品の撮影が始まるBRICKYARDですが、今回はイチオシをご紹介します。



Monthly SELECTION

ドライフラワーをおすすめします。理由は、リピーターの方が「新しく入荷して嬉しい」とInstagramにて、入荷したお花の投稿をしていただいたからです。すでに10種類ほど取り揃えておりますが、季節や流行に合わせて取り入れていると考えています。

Customer's Voice

成人式の前撮りでご利用されたお客様のご家族に「いいところだね」とおしゃっていただけました。また、以前ご利用された方の口コミで来店された方もいらっしゃいます。常連の方だけではなく、新規の方にも満足いただけております。

夏の暑さを感じ始める時期になりました。エアコンを使い始めた方も多いのではないかでしょうか。しかし、早いと6月から秋物商品の撮影が始まります。

ダークな雰囲気とBRICKYARDは相性がよく、秋は得意とする季節です。1シーズンに2~3個、新しい小物を取り入れておられますので、新入荷した商品とともにご利用いただけますと幸いです。

文章:BRICKYARD 香山 泽季さん